

Radio On The Street
西谷文和
路上のラジオ
ファンクラブニュース
創刊号 2019・11・20

発行責任者：西谷文和
連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33
TEL 06-6170-4757 メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。



与那国、石垣、宮古島に新基地が!?

日本最西端で何が起きているのか？

「自衛隊の南西シフト」という言葉を聞いたことがあるだろうか？

大手メディアはほとんど報道していないが、自衛隊は沖縄県の宮古島、石垣島、与那国島、鹿児島県の奄美大島、種子島、馬毛島などに新基地を建設、または建設予定。いったいなぜ？ 基地予定地の現状は？ 住民たちは賛成なのか、反対なのか？ まずは日本最西端、与那国島へ飛んだ。

南西諸島で迎え撃て

2019年10月、沖縄・那覇空港を飛び立ったプロペラ飛行機は約520kmのフライトで与那国空港に着陸した。与那国島は日本最西端、台湾までわずか110キロ。そう、ここから鹿児島県はもちろん、沖縄本島より台湾へ行く方がずっと近いのだ。

私たちを案内してくれるのは南西諸島ピースネット共同代表の猪股哲さん(42)。まずは島の西端、西崎灯台へ。

ここは本州最西端の地(写真)。「西崎」と書いて「イリザキ」と読む。そついで西表島もイリオモテと読む。逆に島の東端は「東崎」と書いて「アガリザキ」。東の水平線から太陽が昇り西に沈む。東がアガリで西はイリ、わかりやすいな！

さてここから台湾は見えるのか？

見える。しかし見えるのは年間で3〜4日。晴れた日ではな



展望台の地面に描かれた地図。与那国島にレーダー、石垣島にミサイル基地が建設予定

図①



く、台風が海峡を通過する直前、特殊な気象条件で、蜃気楼現象とともに台湾が現れる。そんな「西崎灯台展望台」の地面に地形図が(写真)。

「与那国に自衛隊のレーダー部隊がいて、石垣、宮古にミサイル部隊。この地図でわかるように、もし中国が攻めてきたら、この鹿児島から沖縄に至る南西諸島ラインで迎え撃て、ということです。」

猪股さんの説明で、米軍の狙いが見えてくる。それは沖縄に駐留する海兵隊をグアムやオーストラリアに移転させるというもの。沖縄の海兵隊の定員は1900人。2024年から約9千名の海兵隊員をグアム、オーストラリアに移転させ、最終的に2千名に減ら

(2面に続く)

していくのだ。これはどうということか？

沖縄は中国に近い。そして経済発展した中国は軍拡を進め、強大な軍を持つに至った。中国のミサイルは沖縄に届くので、有事の際は米兵が犠牲になる可能性がある。したがって海兵隊は第2列島線のグアムへ退く。その代わりに自衛隊が前に出て第一列島線で中国を封じ込めよ、ということだ(図①)。

えっ、米軍が日本を守ってくれるから沖縄に基地があるのでしょ？

違つのだ。結論から言えば「米軍はイラクやアフガンなど、紛争地に兵を送り込むために沖縄に基地を置いていく」のだ。

1980年代まで「日本の脅威」は何だったか？それは仮想敵国の旧ソ連だ(図②)。

もし米軍が本当に日本を守ってくれるのなら、基地は北海道に置くはずだ。しかし北海道にはずっと自衛隊が駐



屯し、アメリカは青森県三沢に空軍、神奈川県座間に陸軍、横須賀に海軍を置いていた。

もし旧ソ連が日本を攻めてきたら、まずは北海道の自衛隊が迎え撃つ。その間にアメリカ空軍は戦闘機で沖縄の基地に逃げ、態勢を整える。北海道が落ちて、旧ソ連軍が南下してきたら、アメリカ陸軍と海軍は横須賀から船で沖縄に逃げ、態勢を整える。その頃は、旧ソ連軍はかなり疲弊しているはずだ。沖縄で迎え撃ち、完膚なきまでに叩きのめすことができるだろう…。

つまり「日本が金を出す代わりにアメリカが守る」というのは、限りなくウソに近い、ありえない規定なのである。

戦時中の「日本は連戦連勝」。福島原発事故までの「原発は安全」。そして現在の「少子高齢化の日本、消費税は必要」。これらはすべて政府とメディアが刷り込んできた「なんとなくそうなのかな」というイメージに過ぎない。キーワードは「常識を疑え！」だ。

カネも人も差し出す日本

こう考えると、与那国島に自衛隊の対中国レーダー部隊を置き、石垣島、宮古島にミサイル基地を置く、という米軍と防衛省の狙いがハッキリと見えてくる。そつ、「琉球列島を不沈空母にする」のだ。



駐屯地はすでに完成していた

世界の覇権を争う2つの大国、アメリカと中国はガチンコでは戦争をしない(すれば核戦争になり世界は破滅だ)。イラク、アフガン戦争で疲弊した米軍は、今後は戦力を削減してゆく。トランプ大統領は「世界の警察官をやめる」「イラクやシリアから兵を引く」と約束して当選したのだ(だからクルドを見殺しにしてもシリアからの撤退を主張している)。

米軍は中東から撤退していくのだが、ライバル中国には圧力をかけ続けねばならない。自衛隊を前線に置き、自分たちは後列に退くのだ。なんのことはない、日本はアメリカに「カネも人も差し出す」のだ。

当初は反対が多数だったか…

「ここが与那国島の陸上自衛隊駐屯



基地が建設されるまでは反対派が圧倒していた

地です(写真)。沿岸監視部隊に隊員160名、家族90名がこの島にやってきたのです」。駐屯地は撮影禁止、そしてドローン飛行も禁止されている。構わず写真を撮っている、自衛隊員と思しき青年が「そこそこにしてくださいね」と通り過ぎる。

基地建設前は、反対する島民の方が多かった。2011年8月の琉球新報による世論調査では賛成13・3%、反対77・3%と反対が圧倒し、多くの島民がデモや集会で反対の意思を表明していた(写真)。基地建設を止めるため、反対派は基地建設の是非を問う住民投票の実施を求めた。しかし町議会の反対でボツ。その後基地建設工事が

強行され、2015年には自衛隊員とその家族がやってきた。島の人口は1479名、そこに自衛隊員と家族250人が加わった。これで選挙の行方は「自衛隊票」が左右することになった。現在4期目の外間守吉(ほかましゅきち)町長は賛成派。そして町議会議員6名の内、賛成派3名、反対派3名。そんな中で2度目の住民投票を求める動きがあり、この時は議会を通過して実施することになった。

2015年2月、運命の「基地建設を問う住民投票」が実施された。賛成622票、反対445票。なんと賛否が逆転し、「民意は基地賛成」と出てしまったのだ。なぜ世論が急変したのか? 「自衛隊基地がすでに建設中で、いまさら反対するよりは地元落ちるお金をもらった方がいい、と諦める人が増えたのさ」と反対派の町会議員は言う。

罪深いアベ政権と「安保ムラ」

今や島は反対と賛成に2分されている。例えば小さな島の中でただ1社しかなかった生コンプラントが反対派だったため、賛成派が新たな生コン建設会社を立ち上げた。自衛隊基地建設に伴う公共工事を一手に受注するためだ。賛成派のガソリンスタンドには「自衛隊協力店」というステッカーが貼っている。小学校の運動会も賛成派、反対派で座る場所が違つ。極め付けは町



このグラウンドにオスプレイが飛来する?

議会の議長選挙だ。どちらかが議長を取れば、(議長は議決できないので)自分たちの主張が通らない。互いに議長を譲り合つて、なんと議長選挙を99回も繰り返した。本土のメディアはワイドショーなどで「何バカなことをやっている」とからかうような報道をしていたが、背景にある自衛隊基地問題をスルー。あたかも「辺境の島のバカな人たちのバカな争い」のように報じた。賛成派も反対派も国策に翻弄され、苦渋の決断で受け入れてきた事実を報道しないのだ。これは原発や辺野古新基地建設と同じ構図。地方に痛みを押し付けて都会は安全と利便性を享受する。その結果、仲良く暮らしてきた共同体にヒビが入り、修復不能にな

る。そんな不満を「基地マナー、原発マナー」で押さえつける…。

駐屯地のすぐそば、グラウンドが建設中だ(写真)。「島民と自衛隊員が共同で利用できる公認グラウンド」などとあたかも『民生利用』という理由でグラウンドを整地しているのですが、これはオスプレイなどのヘリ基地にするつもりだと思っています。

猪股さんの案内でレーダー基地へ(写真)。「このレーダー基地から地下ケーブルが駐屯地まで伸びています。24時間の監視体制。平時からでも大量の電磁波が出ています。島民の健康被害が心配です」。

風光明媚な島に似つかわしくない巨大なレーダー施設。丸いボールで覆われているのは中のレーダーがどちらを向いているかを隠すため。絶対にあってはならないことだが、対台湾有事、対中国有事になればこのレーダー施設は真っ先に攻撃対象になる。周囲27キロの小さな島だ、いざ有事になれば港湾も空港も攻撃対象になる。住民はおそらく避難できない。

そもそも与那国島は「自立ビジョン」を掲げ、台湾との平和貿易とそれに伴う観光客の受け入れを目指してきた。本来なら日本政府は台湾や中国と友好関係を結び、与那国島を「西の玄関」にして日・中・台の経済圏を築くべきだった。しかし2010年9月に尖閣諸島付近で中国漁船が海上保安庁

の巡視船に衝突する事件が起きる。これを機に「尖閣問題」が一気に浮上し、12年4月石原慎太郎東京都知事(当時)が米国で「尖閣諸島を東京都が買い取る」と発表。この発言を受けて当時の野田内閣が本当に尖閣諸島を買い取ってしまった。中国、台湾との緊張関係が高まり、島の人々による「平和貿易構想」は頓挫せられ、代わりに自衛隊基地建設が強引に進められていったのだ。一連の流れの中から浮かび上がるのは、原子カラムならぬ「安保ムラ」の暗躍だ。日米の軍事産業、基地建設のセネコンやそこに天下る自民党防衛族たちは「平和では食っていけない」のだ。あー罪深いなー、と感じつつ、次なる取材地、石垣島へ飛ぶことにする。(次号に続く)



平和な島に異様なレーダーは似合わない

編集長のひとり言

いつも「路上のラジオ」をご愛聴くださりありがとうございます。ところで私はあまりテレビを見ません。と言いますか、およそ点けたらすぐ消したくなってしまいます。最近では、オリ・パラをクロースアップした番組も多く、私自身「今もなお原子力緊急事態宣言下にある日本において、オリンピックなどにかまけている余裕はないのだ」とおっしゃる小出裕章先生のお考え

にうなずけますし、パラリンピックでいうならば、がんばれる障がい者の活躍より、がんばれないで社会の片隅でひっそりと息をしている人の方が私は気がかりです。政権に都合が悪い情報があれば、くだらない芸能ニュースを延々と流して覆い隠し、スポンサーに忖度すれば、情報を差し替えるか故意に熱量を落とす。これでは、視聴者は正しく社会を知ることができず、マスコミは機能不全に陥っていると言わざるを得ないと思います。ですから私は、大きなラジオ局の職員をしていたこともあり、今、この時代にあつて「路上のラジオ」を手伝います。スタッフは一人きり。小さくとも上質なメディアであるうとする気概をもって、これからも「路上のラジオ」を発信していきます！

(ディレクター・山本素)

編集後記

路上のラジオ・ファンクラブニュース創刊号はいかがでしたか？ 今後もラジオ番組で扱ったトピックの深堀や、ラジオではお見せできなかった写真などを、このファンクラブニュースでお伝えしていこうと考えています。ニュースは3ヶ月に1回のペースで発行＆郵送していく予定です。皆様からのご意見感想をお待ちしています。

なんやこれ!?



汚染水がたまり続ける夢洲。ホンマにここで万博やるの？

ダイオキシン、PCB、カドミウム？ この汚泥地に**カジノ**!?

ウォーターランドは 汚染水ランド？

「なんやこれ！汚いなー」。上の写真は夢洲の第1工区から第2工区に流れ込む汚水。夢洲はゴミとしゅんせつ土砂で埋め立てられた人工島。降り注いだ雨は地中のダイオキシンやPCB、カドミウムなどを含んだ汚染水になる。これを浄化して大阪湾に流すという。やっていることは福島原発と同じ。この汚染水の流れ込む第2工区が万博の会場となる。これはカジノと万博のイメージ図。「ウォーターランド」とあるが、実際には汚染水が流れ込む「汚泥池」だ。



松井大阪市長は「福島の汚染水を（安全なら）大阪湾に流してもいい」と発言した。これは「すでに汚染水を流しているから、大阪湾がどうなってもいい」と考えているからではないか？ カジノと

万博を夢洲でやるのは大変危険である。路上のラジオ第10回目の放送で詳しく指摘している。

今後も引き続き「カジノ反対、オリンピック・万博返上」を訴えていきたいと考えている。



夢洲に入った車はタイヤを洗って出ないとダメ

ギャンブル依存を生む**カジノ**を許さない